

社会資本総合整備計画 事前評価調書

計画の概要	計画の名称	歴史が感じられる持続可能な住環境の創造(高岡地域住宅計画R8-12)
	計画策定主体	高岡市
	事業主体	高岡市
	計画期間	令和8年度～令和12年度(5年間)
	計画の目標	・誰もが安全で安心して住み続けられる良好な住環境と「歴史都市」として愛着と誇りをもてる住文化を形成する。 ・中心市街地活性化に寄与するため、まちなか区域における居住環境の質を向上させ、まちなか居住を推進する。 ・「コンパクト・アンド・ネットワーク」の都市構造を実現するため、居住誘導区域への居住推進を図る。
	定量的指標(目標値)	・高岡市公営住宅長寿命化計画に基づき、市営住宅の計画的な改修を行うことにより、良質な住宅資産を形成する。(高岡市公営住宅長寿命化計画の達成率 0%→100%) ・サービス付き高齢者向け住宅の入居割合を上げる。(86%→100%) ・老朽危険空き家の除却を推進し、道路や隣地の安全を確保する。(除却率 60.9%→72.6%) ・まちなか区域における居住人口の減少を抑制する。(11,311人→10,171人) ・居住誘導区域内の人口密度を維持する。(40人/ha→維持) ・歴史的町並みを形成し、高岡の伝統・文化に触れる機会を創出する。(景観形成重点地区内の修景整備率 62%→67%) ・歴史的町並みを形成し、観光客を呼び込むことにより町並みの活気を創出する。(街なみ環境整備事業地区への観光客入込 1,654千人→2,038千人)
	対象事業	・地域住宅計画に基づく事業 ・住環境整備事業
	全体事業費	1,277百万円

1,277百万円

評価	項目	評価細目	評価	説明欄
	目標の妥当性	1 関連する上位計画等との整合性が図られているか	○	上位計画である高岡市総合計画及び高岡市住生活基本計画との整合性が図られている。
		2 地域の課題に適切に対応する目標となっているか	○	空き家の増加、少子高齢化、人口減などの課題に対して適切な目標となっている。
	計画の効果・効率性	1 整備計画の目標と定量的指標の整合性が確保されているか	○	整備計画の目標に合わせた定量式目標となっている。
		2 定量的指標が分かりやすいものとなっているか	○	実績を基にした指標であり、分かりやすい指標となっている。
		3 目標と事業内容の整合性が確保されているか	○	整備計画の目標に対して適切な事業内容になっている。
		4 中間評価・事後評価時に検証可能な適切な指標となっているか	○	実績を基にした指標であり、中間・事後評価実施できる。
		5 十分な事業効果が得られる計画となっているか	○	目標達成するにあたり、必要事業をあげており事業効果が得られる計画となっている。
	計画の実現可能性	1 計画の熟度が高く、円滑な事業執行の環境が整っているか	○	市の住宅政策についての具体的施策を示した高岡市住生活基本計画に基づく計画であり、円滑に事業執行の環境が整っている。
		2 地元の機運が醸成されているか	○	地元住民・企業からも要望があり、地元との理解を得られている。
	評価結果	評価Ⅰ 事業を実施 評価Ⅱ 計画の見直し		
		【評価基準】 「評価Ⅰ」は、全項目に○印が付いているもの 「評価Ⅱ」は、1項目でも×が付いているもの		